

第1回優秀女子学生賞の副賞のご紹介

2014年度『日本木材学会優秀女子学生賞』が創設されました。この賞は木材学とそれに関連する分野で、優れた研究業績を収めて将来を嘱望される本学会女子学生会員に毎年2名以内に授与されるものです。第1回として 東京農工大学大学院の工藤佳世氏と 東京大学大学院の清水美智子氏に授与されたことは 前号のウッドイエンスメールマガジン(No.035)にご案内の通りです。この賞の副賞について ご紹介させていただきます。

男女共同参画委員会及びその委員会の後継であるダイバーシティ委員会が中心となってこの賞の設立に尽力を注ぎました、そのなかで、折角この分野の女子学生にエールを贈る賞なので、副賞も何かコンセプトチャルなものがよいだろう・・・本賞に賛同くださるデザイン系の女子学生・院生さんに作品を提供していただければいかがということになりました。今回は 昭和女子大学環境デザイン学科の桃園康子准教授のご指導の下、助手の大塩迪奈さんと学生さんたちで この写真の作品を制作いただきました。名入れした台座、コンセプトシート、箱もトロフィーに合わせたものにしていただきました。なお、大塩さんは受賞者と同年代の木工が専門のデザイナーの卵です。

本作品のタイトルは「Chienoki/チエノキ」です。「旧約聖書に登場する神々に等しき善悪の知恵を得るとされる「知恵の木」。この受賞を通じて、学問への好奇心や探求心を持ち続け、知識を日々深めながら、さらなる活躍の可能性を広げていただけるよう、願いを込めました」というコメントを大塩さんからいただいています。作品は10種の自然木からなります。1) 栓、2)ブラックウォルナット、3)桑、4)ペアーウッド(洋梨)、5)神代スギ、6)桂、7)タモ古材、8)欒、9)マコレ、10)神代栗 (用字は大塩さんの表現のママ)。この作品のコンセプトは、「木目を活かしたトロフィーのデザイン提案、天然木の美しさを積み重ねたシンプルなフォルムに仕上がっています。努力を重ねた研究の決勝と、時を重ねて成長する樹木。女性に贈る賞にふさわしい温かみがありながらも凛としたフォルムにまとめています。木目や色味の異なる10種類の木材を用いて、国産材を多く取り入れました。」とのことでした。

私の感想は全く蛇足だとは思いますが、国産材だけだと 赤み(ピンク系)の色がどうしても不足するため、洋梨とマコレ(アフリカンチェリー)を加えたのだと思います。10種の木片を接着させた後、どのあたりをカットしてどのような積層面を見せるのか デザイナーの感性の見せどころかと存じますがいかがでしょうか?研究に必要な積み重ねとひらめきに対応するのではないのでしょうか。

第1回の受賞者のお二人だけでなく惜しくも選に漏れた応募者の方たちの、今後のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

中山 榮子

(学会賞担当理事、ダイバーシティ委員会：昭和女子大学)

